

2013年12月期 第1四半期 決算説明資料

カルナバイオサイエンス株式会社
代表取締役社長
吉野 公一郎

JASDAQ

証券コード:4572

前年同期より業績は大幅改善

- ✓ 売上高は、対前年同期比 39.0%増
- ✓ 営業損益は、売上高の増加、売上原価率の低減等により、前期より 44百万円の改善
- ✓ 経常損益は、営業損益の改善により、前期より 45百万円の改善
- ✓ 当期純損益は、経常損益の改善により、前期より 45百万円の改善

(百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
2013年12月期第1四半期実績 (a)	177	△71	△68	△71
2012年12月期第1四半期実績 (b)	127	△115	△114	△116
対前年同期比 (c)=(a)-(b)	+49	+44	+45	+45
対前年同期増減率 (d)=(c)/(b)	+39.0%	—	—	—
2013年 計画値 (e)	1,155	4	28	23
対通期計画 進捗率 (%)	15.3%	—	—	—

(注1) 百万円未満は切り捨てて表示しております。

(注2) 当期通期計画値は、2013年2月8日発表の通期計画に基づいております。

(注3) 対通期計画に対する進捗率における、「営業利益」「経常利益」「当期純利益」の値はそれぞれ損失を計上しているため数値を表示しておりません。

(百万円)

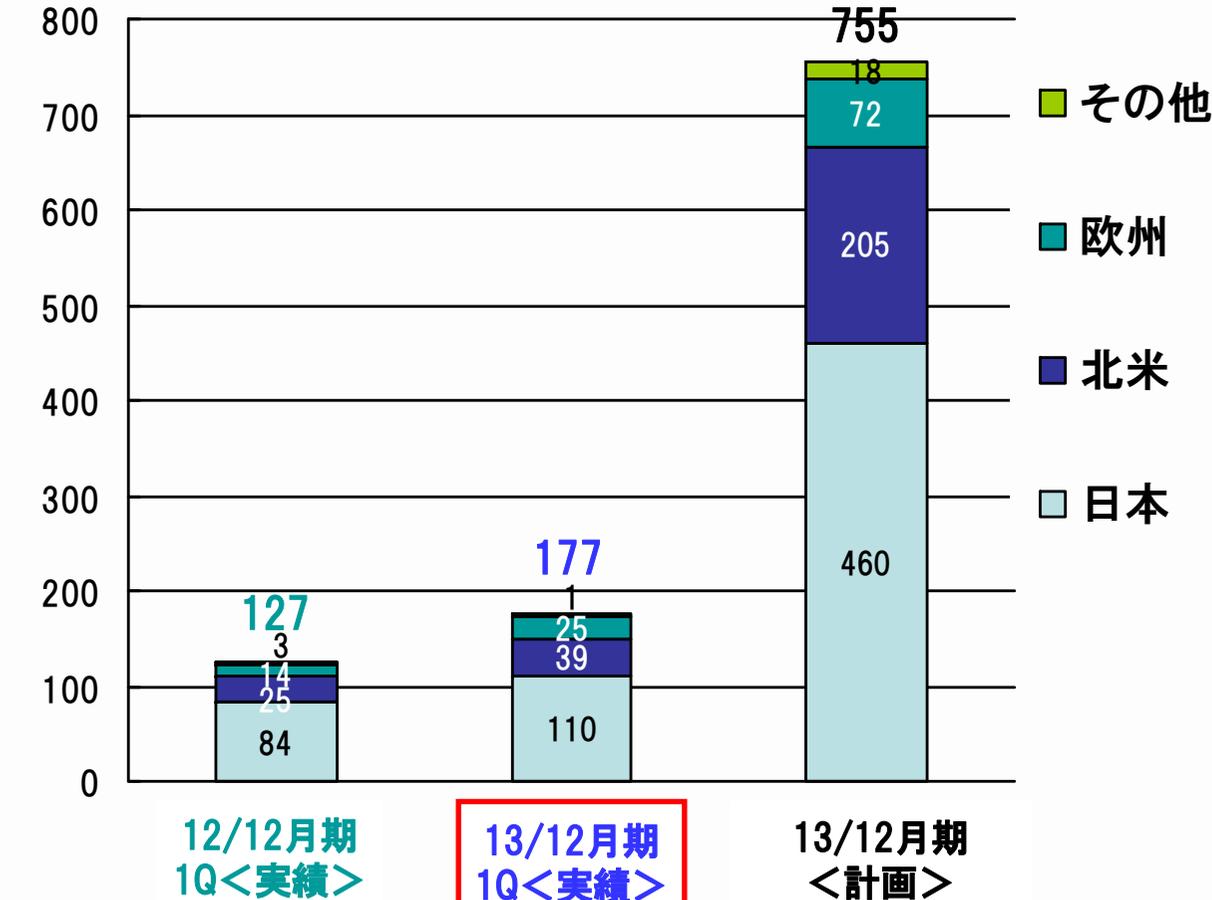
	売上高			営業利益		
	創薬支援事業	創薬事業	計	創薬支援事業	創薬事業	計
2013年12月期 第1四半期実績 (a)	177	—	177	56	△127	△71
2012年12月期 第1四半期実績 (b)	127	—	127	0	△115	△115
対前年同期比 (c)=(a)-(b)	+49	—	+49	+56	△12	+44
対前年同期増減率 (d)=(c)/(b)	+39.0%	—	+39.0%	11,028.1%	—	—
2013年12月期 通期計画 (e)	755	400	1,155	187	△182	4
通期計画に対する 進捗率 (%)	23.4%	—	15.3%	30.2%	—	—

(注1) 百万円未満は切り捨てて表示しております。

(注2) 当期通期計画値は、2013年2月8日発表の通期計画に基づいております。

(注3) 対通期計画に対する進捗率における、「営業利益」の値は損失を計上している場合数値を表示しておりません。

地域別売上高(連結)



為替レート(US\$): 79.37円
 海外売上比率: 34.0%

92.47円
 37.5%

80.00円
 39.1%

創薬支援全体の売上は
 前年同期比 **39.0%増**

・**国内**は前年同期比 **31.6%増**
 ⇒プロファイリング・スクリーニングサービスの大幅増加
 ⇒RPPAサービスの立ち上がり
 (小野薬品工業からの大規模キナーゼスクリーニングサービスの提供は順調に推移)

・**北米**は前年同期比 **54.7%増**
 ⇒プロファイリング・スクリーニングサービスの大幅増加
 ⇒円安ドル高の影響
 (顧客がメガファーマからバイオベンチャーにシフト。販売ネットワークの再構築が実りつつある)

・**欧州**は前年同期比 **81.2%増**
 ⇒セルベースアッセイ売上大幅増

・**その他**は前年同期比 **62.1%減**
 ⇒タンパク販売の低迷

当第1四半期累計期間に当社グループと取引のあった顧客数

(単位:顧客数)

	国内顧客	北米顧客	欧州顧客	その他	合計
2013年12月期 第1四半期 (A)	48	43	25	6	122
2012年12月期 第1四半期 (B)	41	47	26	8	122
増減 (A)-(B)	+7	△4	△1	△2	—
(参考) 2012年12月期通期	63	82	56	14	215

(注1) 各期において売上を計上した顧客数を表示しております。

(注2) 同一顧客に対して複数回売上が計上された場合も1顧客として計算しております。

研究開発費および設備投資について

(単位:百万円)

		2013年12月期 第1四半期累計	2012年12月期 第1四半期累計	2012年12月期 通期
研究開発費	創薬支援事業	—	0	2
	創薬事業	96	81	374
	計	96	82	376
設備投資		4	14	38
期末人員(連結)		52人	50人	52人

(内訳)

研究開発費:化合物の最適化研究や医薬品として適した特性を評価する試験(薬物動態試験等)の外部委託
並びに創薬基盤技術の強化

設備投資 :研究開発用の研究機器

(百万円)

	2013年12月期 第1四半期末	2012年12月末	増減額	増減理由
流動資産	852	913	△60	
現金及び預金	586	654	△68	
その他	266	258	8	売掛金増等
固定資産	278	203	74	投資有価証券(クリスタル・ゲノミクス社)増等
資産合計	1,131	1,116	14	
流動負債	101	109	△8	1年内長期借入金の返済による減少等
固定負債	150	126	23	繰延税金負債の増加等
負債合計	251	236	15	未払金増、長期借入金減等による
純資産合計	879	880	△1	
負債・純資産合計	1,131	1,116	14	

自己資本比率	77.5%	78.9%
一株当たり純資産	12,082円	12,098円
PBR(株価純資産倍率)	17.63倍	1.88倍
(参考)当社株価	213,000円	22,800円

(注)当社株価は大阪証券取引所JASDAQグロースにおける終値に基づく。

ラクオリア創薬とのキナーゼを標的とした創薬研究に関する 共同研究契約締結のお知らせ 平成25年3月22日公表



ラクオリア創薬株式会社



CARNA BIOSCIENCES

キナーゼ阻害剤の創薬共同研究

日本ファイザー社中央研究所
スピノフバイオベンチャー

キナーゼ阻害剤候補
低分子化合物の提供



キナーゼアッセイ系
の提供+プロファイ
リングの実施

2008年設立 本社:愛知県

本契約により創出された新薬の権利および製薬企業等へのライセンスアウト等により得られる収益は、ラクオリア創薬とカルナバイオサイエンスの両社で共有。

(創薬支援事業)

- 北米地域での売上拡大(バイオベンチャーを中心とする新規顧客の開拓)
- RPPAサービスやガンセルライン等のオンリーワンサービスの売上拡大
- 学術サポート力の強化、ならびに、キナーゼに関する創薬基盤技術に基づく顧客へのトータルソリューションの提供

(創薬事業)

- 重点疾患領域は継続的にガン領域とする
- SBIバイオテック株式会社と共同研究で進めているCDC7阻害剤の前臨床化合物について、治療が困難なトリプルネガティブ乳がんなど、様々ながん種への有効性、安全性を評価を進めている
- 免疫炎症疾患及び血液ガンを標的疾患とするBTK阻害剤プログラムについては、引き続き前臨床候補化合物の選定を進めている
- 独立行政法人国立がん研究センター(TNIKキナーゼ、ガン)及び株式会社キノファーマ(DYRK1Aキナーゼ、神経変性疾患)との共同研究においても、ステージアップを目指して、引き続き共同研究中である
- 北里大学北里生命科学研究所と共同研究で進めている新規マラリア治療薬のテーマは、リード候補化合物の創出に成功し、着々と研究を推進中
- 当四半期に開始したラクオリア創薬との共同研究については、新規評価系の構築など準備を着々と進めている

今後とも一層のご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



カルナ《CARNA》は、ローマ神話に登場する人間の健康を守る女神で、cardiac(心臓)の語源とも言われています。バイオサイエンス《BIOSCIENCES》は、生物学と言われ、生物学(Biology)と生命科学(Life Science)から、つくられた言葉です。「生命科学の世紀」とも言われる21世紀に向けて、カルナバイオサイエンス社とともに新しい女神“カルナ”が誕生しました

カルナバイオサイエンス株式会社
経営管理本部 経営企画部
〒650-0047
兵庫県神戸市中央区港島南町1-5-5 BMA3F
Tel (078)302-7075 Fax (078)302-6665
<http://www.carnabio.com/>
ir-team@carnabio.com

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用下さい。また、業界等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。本資料は、投資家の皆様がいかなる目的に利用される場合においても、ご自身の判断と責任において利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません。